

第4回厚生労働省国立研究開発法人等審議会
国立健康危機管理研究機構評価部会

議事概要

○日時 令和8年1月13日（火）～1月30日（金）

○方法 厚生労働省国立研究開発法人等審議会運営規程第2条第1項の規定
に基づく書面審議

○出席者
（委員）

井上委員、鈴木委員、土井委員、中野委員、花井委員、福島委員

○議題 国立健康危機管理研究機構の評価に関する主な評価軸等について

審議事項

【議題】 国立健康危機管理研究機構の評価に関する主な評価軸等について

国立健康危機管理研究機構の評価に関する主な評価軸等について、厚生労働省国立研究開発法人等審議会（国立健康危機管理研究機構評価部会）の意見等は以下のとおりです。

（質問）

各中期目標にわたり、確認のみだが、モニタリング指標が各中期目標について相互排他的である必要はあるのか。同じ指標が複数の中期目標の評価に影響する（独立でない）可能性があるため。

（回答）

同じ指標でも、（１）～（４）の各事業に関する指標となっているので、内容も同じとは限りません。（例えば、「国際学会での発表」であれば、（３）国際医療研究事業（４）公衆衛生研究事業それぞれの事業における「国際学会での発表」となります。）各評価区分において、評価軸・指標を複数設定しており、多面的な観点から総合的に評価するものですので、指標が相互排他的である必要はございません。

（意見）

各中期目標にわたり、主な評価軸「部門間での連携研究の促進が図られているか。」のモニタリング指標として「肝炎・H I V・AMR・急性呼吸器疾患等に関する各分野の画期的な研究成果数」は必ずしもそぐわないように思われる。例えば HIV に関する研究はもっぱら HIV の研究グループが実施するように思う。より直接的に連携研究を反映できる指標があれば、その方が望ましいと考える。

（回答）

「肝炎・H I V・AMR・急性呼吸器疾患等に関する各分野の画期的な研究成果数」は、統合に伴うシナジー効果を図るための両組織間の連携を評価する指標として、中期目標の 10 ページの「感染症に係る研究体制について、統合に伴う研究部門間の協働・連携により、肝炎・H I V・AMR・急性呼吸器疾患等に関する各分野の画期的な研究成果 4 件以上」から引用した指標です。御指摘のとおり連携研究の取組を反映した指標ですので、案のとおりといたします。

(意見)

1 ページの主な評価軸「妥当性の観点から、成果・取組が国の方針や社会のニーズと適合しているか。」の評価指標「公衆衛生の向上や増進への寄与」について、公衆衛生研究については、中期目標（4）に分類されているため、中期目標（1）における本評価軸の評価指標としては「感染症対策の向上や増進への寄与」と記載するのがより適切ではと考える。

(回答)

ご意見のとおり修正いたしました。

(意見)

6 ページの主な評価軸「アウトリーチ・理解増進の観点から、社会に向けて、研究・開発の成果や取組の科学技術的意義や社会経済的価値をわかりやすく説明し、社会から理解を得ていく取組を積極的に推進しているか。」の評価指標「アウトリーチ戦略」について、評価指標は、評価・評定の基準として扱う指標なので、「アウトリーチ戦略の取組状況」と記載するのがより適切ではと考える。

(回答)

ご意見のとおり修正いたします。

(3) 国内外の医療の推進のための研究開発の推進〔国際医療研究事業〕の主な評価軸「アウトリーチ・理解増進の観点から、社会に向けて、研究・開発の成果や取組の科学技術的意義をわかりやすく説明し、理解を得ていく取組を積極的に推進しているか。」の同じ指標も同様に修正いたしました。

(意見)

評価軸と関連性の薄い評価指標及びモニタリング指標が散見される。

また、評価指標とモニタリング指標の対応関係がわかりづらい。個々のモニタリング指標が、どの評価指標に紐づけられているのかを明示することはできないか。

(回答)

前者について、具体的にいただいた意見を踏まえ修正いたしました。

後者について、「独立行政法人の目標の策定に関する指針」において、「指標等の設定に当たっては、定量的水準・観点を十分考慮する」とされております。

一方、定量的な指標は、「必ずしもこれらがアウトカムに直結するとは限らない場合があるほか、法人としてこれらの数値を上げること自体が安易に目的化することは必ずしも適当ではない場合」があります。定量的な指標を評価指標として設定することにより、「近視眼的、断片的な研究開発を助長するおそれ」もあります。このため、「主務大臣は、(略) 評価・評定の基準として取り扱う指標(評価指標)と、正確な事実を把握し適正・厳正な評価に資するために必要な指標(モニタリング指標)とを適切に分け、当該指標がどちらなのかを明示する」こととされております。ご意見を踏まえ、対応関係が分かるよう、表形式を変更しました。

(意見)

1 ページの主な評価軸「研究開発環境の整備・充実の観点から、最先端の研究施設・設備の迅速な導入、研究支援者、技術者等の充実等、研究者が質の高い研究開発を行うための研究開発環境の整備・充実が図られているか。」のモニタリング指標「特許・ライセンス契約の件数」について、当該モニタリング指標が、どの評価指標と紐づけられているのかが明確でない。「知財管理体制の整備状況」といった評価指標を設けるべきではないか。

(回答)

主な評価軸「研究開発等の成果を社会実装につなげる取組(技術シーズを実用化・事業化に導く等)が十分であるか。」の評価指標「知的財産の活用状況」を「知財管理の状況」などとしてはどうかのご意見と併せ「知的財産の管理状況」と追記いたしました。

(意見)

1 ページの主な評価軸「国際水準に照らして、成果・取組の科学的意義(獨創性、革新性、先導性、発展性等)が十分に大きなものであるか。」の評価指標「感染症の実態把握・検査診断、治療薬・ワクチン等の研究開発、ワクチン・血液製剤等の品質管理等を高水準で遂行するための基盤となる能力の維持及び向上」について、当該評価指標は研究開発の基盤の整備状況に関するものであり、成果・取組の科学的意義の大きさを問う評価軸との関連性が薄いように思われる。

(回答)

主な評価軸「研究開発環境の整備・充実の観点から、最先端の研究施設・設備の迅速な導入、研究支援者、技術者等の充実等、研究者が質の高い研究開発

を行うための研究開発環境の整備・充実が図られているか。」の指標といたしました。

(意見)

2 ページの主な評価軸「研究開発環境の整備・充実の観点から、研究開発の体制の充実（人材の育成・支援を含む）が図られ、研究成果の実用化に向けた橋渡しに係る取組が十分であるか。」の評価指標について、研究成果の実用化に向けた橋渡しのための取組に係る評価指標として、「知財専門人財の育成または支援」といった項目を入れてもよいのではないか。その場合、当該評価指標に対応するモニタリング指標も設ける。

(回答)

「研究者・専門家の人材育成・支援」に含む形で「研究者・専門家（知的財産専門人材を含む）の人材育成・支援」といたします。

(意見)

3 ページの主な評価軸「国際水準に照らして、成果・取組の科学的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）が十分に大きなものであるか。」の評価指標「治験、臨床研究への取組状況」および「各種レジストリーデータの薬事承認への活用の促進状況」について、これらの評価指標は研究開発体制の十分性に関するものであり、成果・取組の科学的意義の大きさを問う評価軸との関連性が薄いように思われる。これらは、評価軸「研究開発等の成果を社会実装につなげる取組（技術シーズを実用化・事業化に導く等）が十分であるか」と関連づけられるのではないか。

(回答)

評価軸「研究開発等の成果を社会実装につなげる取組（技術シーズを実用化・事業化に導く等）が十分であるか」にも同じ指標を設定しております。

どちらも科学的検証を伴うものであり、科学的意義の十分さの指標にもなりうることから、評価軸「国際水準に照らして、成果・取組の科学的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）が十分に大きなものであるか」の指標とし、「治験、臨床研究への取組状況」は「独創性等を備えた治験、臨床研究の取組状況」と修正いたしました。

(意見)

3 ページの主な評価軸「国際水準に照らして、成果・取組の科学的意義（独

創性、革新性、先導性、発展性等)が十分に大きなものであるか。」の評価指標「治験、臨床研究への取組状況」について、当該評価指標は、成果・取組の科学的意義の大きさを問う評価軸との関連性は薄いように思われる。評価軸「研究開発環境の整備・充実の観点から、研究開発の体制の充実(人材の育成・支援を含む)が図られ、研究成果の実用化に向けた橋渡しに係る取組が十分であるか」に関連づけられるのではないか。

(回答)

評価軸「研究開発環境の整備・充実の観点から、研究開発の体制の充実(人材の育成・支援を含む)が図られ、研究成果の実用化に向けた橋渡しに係る取組が十分であるか」にも同じ指標を設定しております。

科学的検証を伴うものであり、科学的意義の十分さの指標にもなりうることから、評価軸「国際水準に照らして、成果・取組の科学的意義(独創性、革新性、先導性、発展性等)が十分に大きなものであるか」の指標として「独創性等を備えた治験、臨床研究の取組状況」と修正いたします。

(意見)

3ページの主な評価軸「研究開発等の成果を社会実装につなげる取組(技術シーズを実用化・事業化に導く等)が十分であるか。」の評価指標「感染症臨床研究ネットワークで収集・保管した臨床情報や生体試料等を外部研究機関等へ分与・提供することによる国内の研究開発の支援状況」について、「研究開発の支援状況」は「成果の社会実装に繋げる取組の十分性」に係る評価軸に関する評価指標とはいえないように思われる。評価軸「研究開発環境の整備・充実の観点から、研究開発の体制の充実(人材の育成・支援を含む)が図られ、研究成果の実用化に向けた橋渡しに係る取組が十分であるか」に関連づけられるべきではないか。

(回答)

ご意見のとおり修正いたしました。

(意見)

3ページの主な評価軸「研究開発等の成果を社会実装につなげる取組(技術シーズを実用化・事業化に導く等)が十分であるか。」の評価指標「知的財産の活用状況」について、研究成果の実用化・事業化を適切に推進するためには、すでに保有する知的財産の活用のみならず、知財(特許等)を取得する段階での戦略性が求められる。「知財管理の状況」などとしてはどうか。

(回答)

「知的財産の管理状況」と修正いたしました。

(意見)

4 ページの主な評価軸「国際水準に照らして、成果・取組の科学的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）が十分に大きなものであるか。」の評価指標「情報発信の取組状況」について、「情報発信の取組状況」が研究成果の科学的意義の大きさを問う評価軸とどう関連するのかが不分明。

(回答)

「情報発信の取組状況」は削除いたしました。

(意見)

5 ページの主な評価軸「アウトリーチ・理解増進の観点から、社会に向けて、研究・開発の成果や取組の科学技術的意義をわかりやすく説明し、理解を得ていく取組を積極的に推進しているか。」の評価指標「情報発信の取組状況」について、意味を明確化するために「社会一般に向けた情報発信の取組状況」などとしてはどうか。

(回答)

ご意見のとおり修正いたしました。

(意見)

5 ページの主な評価軸「国内外の研究機関等との連携により効果的な研究開発が期待される領域への取組みが十分であるか。」のモニタリング指標「海外の研究機関との研究協力協定の締結状況」について、このモニタリング指標に対応する評価指標を設けるべきではないか。

(回答)

「海外の研究機関との研究協力状況」を追記いたしました。

(意見)

6 ページの主な評価軸「国際水準に照らして、成果・取組の科学的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）が十分に大きなものであるか。」の評価指標「大学・研究機関、国際機関、民間企業等国内外の研究者との研究協力状況」

について、成果の科学的意義の大きさを問う評価軸との関連が不分明。

(回答)

ご意見を踏まえ「大学・研究機関、国際機関、民間企業等国内外の研究者との研究協力及び国際的に評価の高い共同研究への取組状況」といたします。

(意見)

6 ページの主な評価軸「国際水準に照らして、成果・取組の科学的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）が十分に大きなものであるか。」の評価指標「政策提言や対策の現場で活用可能な公衆衛生学、疫学、経済学に係る研究成果の創出状況」及び「有事の活動に必要な事項についての研究成果の創出状況」について、これらの評価指標は成果・取組の科学的意義の大きさを問う評価軸との関連性が薄いように思われる。これらは、評価軸「政策への貢献の観点から、調査・分析に基づいた科学技術政策等への提言、研究開発プロジェクトの制度設計・提案などの貢献がなされているか」と関連づけられるのではないか。

(回答)

「政策提言や対策の現場で活用可能な公衆衛生学、疫学、経済学に係る研究成果の創出状況」については、主な評価軸「政策への貢献の観点から、調査・分析に基づいた科学技術政策等への提言、研究開発プロジェクトの制度設計・提案などの貢献がなされているか。」に同じ指標を設定しており、政策への貢献の観点ですので、ご意見のとおり、主な評価軸「国際水準に照らして、成果・取組の科学的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）が十分に大きなものであるか。」の指標からは削除いたしました。

「有事の活動に必要な事項についての研究成果の創出状況」については、科学的意義の大きさの指標ともなり得ることや、指標が多いほうが評価を行いやすいと思われることから案のとおりといたします。

(意見)

6 ページの主な評価軸「国際水準に照らして、成果・取組の科学的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）が十分に大きなものであるか。」のモニタリング指標「国際学会での発表件数」「国内学会での発表件数」について、これらのほか、「原著論文数」、「論文の被引用回数」もモニタリング指標となりうるのではないか。

(回答)

ご意見のとおり追記いたしました。

(意見)

6 ページの主な評価軸「アウトリーチ・理解増進の観点から、社会に向けて、研究・開発の成果や取組の科学技術的意義や社会経済的価値をわかりやすく説明し、社会から理解を得ていく取組を積極的に推進しているか。」の評価指標「リスクコミュニケーションや情報発信に関する研究の取組状況」について、この評価指標に対応するモニタリング指標を設けてはどうか。

(回答)

「リスクコミュニケーションや情報発信に関する研究件数」を追記いたしました。

(意見)

6 ページの主な評価軸「政策への貢献の観点から、調査・分析に基づいた科学技術政策等への提言、研究開発プロジェクトの制度設計・提案などの貢献がなされているか。」のモニタリング指標「実地疫学調査に係る学会発表件数」について、評価指標のうち、どの指標と対応しているかが不明瞭と感じた。具体的には、1 点目の評価指標「政策提言や対策の現場で活用可能な公衆衛生学、疫学、経済学に係る研究成果の創出状況」との対応であれば、実地疫学調査の成果だけでよいのか、2 点目の評価指標「有事の活動に必要な事項についての研究成果の創出状況」との対応であれば、学会発表だけでよいのか、といった点について検討いただきたい。

(回答)

「独立行政法人の目標の策定に関する指針」において、「指標等の設定に当たっては、定量的水準・観点を十分考慮する」とされております。一方、定量的な指標は、「必ずしもこれらがアウトカムに直結するとは限らない場合があるほか、法人としてこれらの数値を上げること自体が安易に目的化することは必ずしも適当ではない場合」があります。定量的な指標を評価指標として設定することにより、「近視眼的、断片的な研究開発を助長するおそれ」もあります。このため、「主務大臣は、(略) 評価・評定の基準として取り扱う指標（評価指標）と、正確な事実を把握し適正・厳正な評価に資するために必要な指標（モニタリング指標）とを適切に分け、当該指標がどちらなのかを明示する」とこととされております。ご意見を踏まえ、対応関係が分かるよう、表形式を変更しました。

(意見)

6 ページの主な評価軸「国際水準に照らして、成果・取組の科学的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）が十分に大きなものであるか。」の評価指標「有事の活動に必要な事項についての研究成果の創出状況」について、対応するモニタリング指標が不明瞭と感じた。1つ上の行の意見と関連するので、双方の整合性が取れるよう、検討いただきたい。

(回答)

「独立行政法人の目標の策定に関する指針」において、「指標等の設定に当たっては、定量的水準・観点を十分考慮する」とされております。一方、定量的な指標は、「必ずしもこれらがアウトカムに直結するとは限らない場合があるほか、法人としてこれらの数値を上げること自体が安易に目的化することは必ずしも適当ではない場合」があります。定量的な指標を評価指標として設定することにより、「近視眼的、断片的な研究開発を助長するおそれ」もあります。このため、「主務大臣は、(略) 評価・評定の基準として取り扱う指標（評価指標）と、正確な事実を把握し適正・厳正な評価に資するために必要な指標（モニタリング指標）とを適切に分け、当該指標がどちらなのかを明示する」とされております。ご意見を踏まえ、対応関係が分かるよう、表形式を変更しました。

また、主な評価軸「政策への貢献の観点から、調査・分析に基づいた科学技術政策等への提言、研究開発プロジェクトの制度設計・提案などの貢献がなされているか。」の評価指標「有事の活動に必要な事項についての研究成果の創出状況」に対応するモニタリング指標として「感染症対策の展開に活用できる公衆衛生研究事業における研究成果数」を記載いたしました。

(その他)

その他、(1) 感染症を中心とした基礎研究の推進の主な評価軸「国内外の大学、民間事業者、研究開発機関等との連携・協力の取組が十分であるか。」のモニタリング指標「機構外機関との連携数」については、内容を明確化し、「関係機関とのMOU件数」と修正いたしました。

以 上

国立健康危機管理研究機構の評価に関する主な評価軸等（修正）

（※）評価指標：評価・評定の基準として取り扱う指標 モニタリング指標：正確な事実を把握し適正・厳正な評価に資する ために必要な指標

中期目標	主な評価軸	備考（関連する評価指標、モニタリング指標等）（※）	
		評価指標	モニタリング指標
第4 2. 研究開発の成果の最大化（機構法第23条第1項第1号に掲げる業務）			
<p>（1）感染症を中心とした基礎研究の推進〔病原体・基盤研究事業〕</p>	<p>○研究開発環境の整備・充実の観点から、最先端の研究施設・設備の迅速な導入、研究支援者、技術者等の充実等、研究者が質の高い研究開発を行うための研究開発環境の整備・充実が図られているか。</p>	<p>・感染症の実態把握・検査診断、治療薬・ワクチン等の研究開発、ワクチン・血液製剤等の品質管理等を高水準で遂行するための基盤となる能力の維持及び向上</p>	-
		<p>・感染症研究に係る基盤構築としての生物資源、生体試料等の確保・保管状況</p>	<p>・生物資源、生体試料等の確保・保管件数</p>
		<p>・病原体マニュアルの整備状況</p>	<p>・病原体マニュアル整備数</p>
		<p>・知的財産の管理状況</p>	<p>・特許・ライセンス契約の件数</p>
	<p>○国際水準に照らして、成果・取組の科学的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）が十分に大きなものであるか。</p>	<p>・病原体等の伝播（ば）機序、増殖機序、病態解明等の研究成果</p>	-
			<p>・肝炎・H I V・A M R・急性呼吸器疾患等に関する各分野の画期的な研究成果数</p>
			<p>・原著論文数 ・論文被引用件数 ・（海外・国内）著名誌への論文掲載数</p>
	<p>○妥当性の観点から、成果・取組が国の方針や社会のニーズと適合しているか。</p>	<p>・感染症対策の向上や増進への寄与 ・国内外の大学、民間事業者、研究開発機関等との連携状況</p>	<p>・国等への政策提言数</p>
			<p>・外部研究資金の獲得件数・金額 ・関係機関とのMOU件数</p>
			<p>・安全管理規程等の見直し件数 ・病原体検査体制に係る訓練件数</p>
	<p>○国内外の大学、民間事業者、研究開発機関等との連携・協力の取組が十分であるか。</p>	<p>・大学・研究機関及び企業等で実施困難な病原体に関する研究基盤強化 ・国内外の大学、民間事業者、研究開発機関等との連携状況</p>	<p>・行政検査の受付・実施件数</p>
			<p>・関係機関とのMOU件数 ・国内外の大学、民間事業者等との共同研究数</p>
<p>・地方衛生研究所等との連携状況</p>			
<p>○部門間での連携研究の促進が図られているか。</p>	<p>・部門間での連携研究の促進状況</p>	<p>・肝炎・H I V・A M R・急性呼吸器疾患等に関する各分野の画期的な研究成果数</p>	
		<p>・部門間での連携・共同研究数</p>	

中期目標	主な評価軸	備考（関連する評価指標、モニタリング指標等）（※）	
		評価指標	モニタリング指標
<p>（2）実用化を目指した研究開発の推進及び基盤整備 〔臨床研究事業〕</p>	<p>○研究開発環境の整備・充実の観点から、研究開発の体制の充実（人材の育成・支援を含む）が図られ、研究成果の実用化に向けた橋渡しに係る取組が十分であるか。</p>	・ 治験、臨床研究への取組状況	・ バイオバンク検体登録件数 ・ バイオバンク試料を用いた研究の実施件数
		・ 研究倫理体制の整備等の状況	-
		・ 研究者・専門家（知的財産専門人材を含む）の人材育成・支援	・ 国内外の育成研究者数 ・ 教育・人材育成に係る研修実施数
		・ 感染症臨床研究ネットワークで収集・保管した臨床情報や生体試料等を外部研究機関等へ分与・提供することによる国内の研究開発の支援状況	・ 臨床情報や生体試料等の分与・提供先数 ・ 臨床情報や生体試料等の分与・提供数
	<p>○国際水準に照らして、成果・取組の科学的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）が十分に大きなものであるか。</p>	・ 独創性等を備えた治験、臨床研究への取組状況	・ 国際共同治験への参加数 ・ 国際臨床研究実施件数 ・ 国際臨床研究のうち薬事承認又はWHO制度（PQ、EUL等）の認証目的案件
		・ 感染症臨床研究ネットワークの運営状況	・ 臨床情報や生体試料等の分与・提供数
		・ 各種レジストリデータの薬事承認への活用の促進状況	-
		・ 生活習慣病の予防医学研究、啓発活動の推進状況	-
		・ ゲノム情報等を活用した個別化医療の確立に向けた研究の推進状況	-
		・ 臨床研究及び治験のための共通的な基盤の共用状況	-
		-	・ 肝炎・HIV・AMR・急性呼吸器疾患等に関する各分野の画期的な研究成果数
	<p>○研究開発等の成果を社会実装につなげる取組（技術シーズを実用化・事業化に導く等）が十分であるか。</p>	・ 治験、臨床研究への取組状況	・ First in Human試験実施件数 ・ 医師主導治験実施件数 ・ 臨床研究（倫理委員会にて承認された研究をいう。）実施件数 ・ 治験（製造販売後臨床試験を含む。）実施件数 ・ 外部機関等との共同研究実施件数
		・ 各種レジストリデータの薬事承認への活用の促進状況	-
		・ 生活習慣病の予防医学研究、啓発活動の推進状況	-
		・ ゲノム情報等を活用した個別化医療の確立に向けた研究の推進状況	-
・ 知的財産の管理状況		・ 特許・ライセンス契約の件数	
<p>○部門間での連携研究の促進が図られているか。</p>		・ 部門間での連携研究の促進状況	・ 肝炎・HIV・AMR・急性呼吸器疾患等に関する各分野の画期的な研究成果数 ・ 部門間での連携・共同研究数

中期目標	主な評価軸	備考（関連する評価指標、モニタリング指標等）（※）	
		評価指標	モニタリング指標
(3) 国内外の医療の推進のための研究開発の推進 [国際医療研究事業]	○国際水準に照らして、成果・取組の科学的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）が十分に大きなものであるか。	・国内外の保健医療機関等との共同研究の実施状況	・国際共同研究・臨床治験の計画数、実施数 ・肝炎・HIV・AMR・急性呼吸器疾患等に関する各分野の画期的な研究成果数 ・医療推進に大きく貢献する国際医療研究事業における研究成果数 ・原著論文数 ・論文被引用件数 ・（海外・国内）著名誌への論文掲載数 ・国際学会での発表件数
	○社会的価値の創出に十分貢献するものであるか。	・外部研究資金獲得方針・状況	・外部研究資金の獲得件数・金額
		・公衆衛生の向上や増進への寄与	-
		・国の政策への貢献	・政策提言数
	○アウトリーチ・理解増進の観点から、社会に向けて、研究・開発の成果や取組の科学技術的意義をわかりやすく説明し、理解を得ていく取組を積極的に推進しているか。	・アウトリーチ戦略の取組状況	・HP等による成果等の広報数・アクセス数
		・社会一般に向けた情報発信の取組状況	・新聞、雑誌、テレビ等での掲載・報道数
			・国民・患者向けセミナー等の実施件数
			・国民・患者向けセミナー等の参加者数
			・医療従事者向けセミナー等の実施件数
			・医療従事者向けセミナー等の参加者数
	○国内外の研究機関等との連携により効果的な研究開発が期待される領域への取組みが十分であるか。	・海外の研究機関との研究協力状況	・海外の研究機関との研究協力協定の締結状況
		・国立高度専門医療研究センター（NC）との疾患横断的研究に係る基盤整備、人材育成等の取組状況	・患者情報、診療録情報の収集件数
・他機関の疾患レジストリとの連携数			
・情報基盤データを活用した学会発表数・論文数			
・NCとの共同研究の計画・実施件数			
・企業等との受託・共同研究の計画・実施件数			
・NCとの連携による政策提言数・学会等の策定する診療ガイドライン等への提案数			
・情報発信の取組状況		・JHのHP等による成果等の広報数・アクセス数	
		・NCとの共同の記者会見実施数	
		・NCとの共同の取組に関する新聞、雑誌、テレビ等での掲載・報道数	
	・NCとの共同の取組による研究支援人材等の育成・研修コースの設置数		
	・NCとの共同の教育コンテンツの受講者数		
○部門間での連携研究の促進が図られているか。	・部門間での連携研究の促進状況	・肝炎・HIV・AMR・急性呼吸器疾患等に関する各分野の画期的な研究成果数	
		・部門間での連携・共同研究数	

中期目標	主な評価軸	備考（関連する評価指標、モニタリング指標等）（※）	
		評価指標	モニタリング指標
(4) 公衆衛生研究の推進及び基盤構築 〔公衆衛生研究事業〕	○国際水準に照らして、成果・取組の科学的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）が十分に大きなものであるか。	・大学・研究機関、国際機関、民間企業等国内外の研究者との研究協力及び国際的に評価の高い共同研究への取組状況 ・有事の活動に必要な事項についての研究成果の創出状況	・公衆衛生に係る他の研究機関等との共同研究件数
			・感染症対策の展開に活用できる公衆衛生研究事業における研究成果数
		・肝炎・H I V・A M R・急性呼吸器疾患等に関する各分野の画期的な研究成果数	
		・原著論文数	
		・論文被引用回数	
		・国際学会での発表件数 ・国内学会での発表件数	
	○政策への貢献の観点から、調査・分析に基づいた科学技術政策等への提言、研究開発プロジェクトの制度設計・提案などの貢献がなされているか。	・政策提言や対策の現場で活用可能な公衆衛生学、疫学、経済学に係る研究成果の創出状況 ・有事の活動に必要な事項についての研究成果の創出状況	・実地疫学調査に係る学会発表件数
			・国等への政策提言数 ・関係機関とのMOU件数
	○アウトリーチ・理解増進の観点から、社会に向けて、研究・開発の成果や取組の科学技術的意義や社会経済的価値をわかりやすく説明し、社会から理解を得ていく取組を積極的に推進しているか。	・アウトリーチ戦略の取組状況	・HP等による成果等の広報数・アクセス数
			・新聞、雑誌、テレビ等での掲載・報道数
		・リスクコミュニケーションや情報発信に関する研究の取組状況	・シンポジウム等の開催件数
			・地域住民との交流件数 ・リスクコミュニケーションや情報発信に関する研究件数
○部門間での連携研究の促進が図られているか。	・部門間での連携研究の促進状況	・肝炎・H I V・A M R・急性呼吸器疾患等に関する各分野の画期的な研究成果数	
		・部門間での連携・共同研究件数	